

# 市政を身近に 令和4年度第2回定例議会、決算特別委員会にて質疑しました！

## 教員不足問題への対策を！

### 教育

#### 質疑のポイント

- ☑ 全国的に教員不足が深刻化しており、神戸市でも今年は前年比24人増の26人の教員が足りない状態である。
- ☑ 教員不足の原因についてどう考えているのか、対策はどうか。
- ☑ 「KOBE教員スタートプログラム」の取り組みの狙いは。

○教育長：教員志望者が減少しており、全国的な教員不足の影響を受けた。臨時的任用教員を含む教員の確保が難しかったことや、定年以外の退職者が想定以上に増加をしたことなどが考えられる。他都市に比較しても高い水準となっている採用選考の中で、本市の教員として求める資質・能力を見極めて積極的に採用を行っていきたい。また、研修のより一層の充実に努め、採用後の人材育成にも力を入れていく。教員不足に陥らないように、人材の確保に全力で取り組んでいく。また、「KOBE教員スタートプログラム」には、ペーパーティーチャーや教員経験を有しながら教職を離れている方々から応募があり、23名がプログラムを受講した。研修終了後、既に現在5名が学校園に勤務をしている。配置後も必要な指導などフォローに努める。



## 子ども・若者ケアラーへの支援を！

### 福祉・子育て

#### 質疑のポイント

- ☑ 「子ども・若者ケアラー相談・支援窓口」を設置して1年が経過し、この7月時点で支援対象ケースが75件である。
- ☑ 当事者や家族からの相談が16件である状況を踏まえ、早期発見と支援のため、関係機関への働きかけや窓口の周知・啓発をすべきでは。
- ☑ こども家庭局と連携しヘルパーの派遣事業を開始しているが、3か月が限度の期間延長も含め、息の長い支援策を講じるべきでは。

本人からの相談の難しさの1つの要因として、当事者に自覚がないケースがほとんどである。そのため、ヤングケアラーの周囲の大人が発見者となる可能性が高く、関係者等への理解促進が非常に重要である。庁内関係機関の職員への研修および事業者や地域の支援者に対する会合でヤングケアラーに関する話を重点的に実施してきた。教育委員会でも対応している。18歳未満のケアラーのいる世帯に対する訪問支援事業を開始しており、利用実績は2件である。本来必要なサービスへつなげていく期間で設定しているが、必要に応じて延長をやっている。



## 様々な話題と課題を取り上げています！

『高羽交差点の安全対策』：この交差点は、六甲有料道路から続く長い下り坂のため、ブレーキの不具合で事故が発生しやすい場所であるが、安全対策はどうか。交差点に人が侵入しないように、スロープ付きの歩道橋や地下道を整備しているが、様々な制約がある中で動線をスムーズにするための方策をとるべきでは、と要望しました。



▶ 事故が多発する高羽交差点



『中央市民病院の救急医療体制』：中央市民病院は、救命救急センターの評価結果全国1位を8年連続で達成している。近年の新型コロナ対応の中で、断らない救急医療を維持することは、困難さがあったと思うが、どのような工夫・取組を行うことで、全国1位を達成することができたのか、と質疑しました。

『外来生物対策』：「外来生物法」の改正により、アメリカザリガニやアカミミガメといった身近な生物に対して、新たな個体の輸入や販売、野外への放出を禁じる規制が新たに設けられることになる。改正法の施行に向けて、広く市民に周知する必要があるのではないか、また、今年の8月に苅藻島クリーンセンターに「外来生物展示センター」がオープンしたが、この施設を設置することにどのような意義があるのか、と質疑しました。



▶ 外来生物展示センター



『コロナ禍における大学生の相談・支援体制』：新型コロナウイルスによる生活様式の変化は大学生にも大きく影響している。オンライン面談の導入や相談の電話代を負担する対策により、令和3年度の相談件数が過去最多となった大学もあると聞く。神戸市立外大と神戸市立看護大において、近年の相談件数および内容はどうか、また相談に対するサポート体制はどうなっているか。特に、コロナ禍当初の令和2年春に入学した3年生は、対面の学生生活が制限されて、成長の機会が得られていない。3年生へ寄り添うサポートが特に必要と考えるがどうか、と質疑しました。

